Central Daily Market Report

2016年9月21日（水）
セントラル短資株式会社　総合企画部

●資金需給

単位：億円	2016年9月21日 需給速報		2016年9月23日 需給予想		2016年9月26日 当社予想	
銀行券	▲ 900		▲ 300		1,000	
財政	2,400		▲ 3,500		▲ 2,000	
資金過不足	1,500		▲ 3,800		▲ 1,000	
金融調節	スタート	エンド	スタート	エンド	スタート	エンド
貸出						
全店共通					2,400	▲ 2,000
国債買現						
国庫短期証買入	12,500					
国債買入	9,000		8,100			
CP等買入		▲ 800		▲ 800		
貸出支援基金(成)						
貸出支援基金(貸)						
被災地支援			800	▲ 1,000		
社債等買入				▲ 100	1,300	
ＥＴＦ買入	300		500			
国債補完供給	▲ 1,100	1,400		1,100		
当預増減	22,800		4,800		700	

当座預金残高	3,119,000	3,123,800	3,124,500
準備預金残高	2,818,600		
積み終了先	2,332,900		
超過準備	2,330,500		
非準備預金先	300,400		

9月23日以降の残り所要積立額	
積数	20,000
1日平均	900

積み期間（9/16～10/15）の所要準備額			2,072,900
準備預金進捗率	実績	99.04%	日数 23.33%

●2016年9月21日の市場動向

<インターバンク市場>

午前8時発表の準備預金残高見込みは、前日比3兆5,000億円増加の234兆5,000億円(当座預金残高見込みは312兆円)。本日の無担O/Nは邦銀勢を中心に▲0.085～▲0.04%近辺の調達希望で始まった。立ち上がりは▲0.08～▲0.04%の出合い。日銀政策決定会合の公表を控えていたものの、特段目立った動きは見られなかった。公表後も動きは乏しく、本日の取引を終えた。ターム物は閑散であった。

<レポ市場>

GC T/N(9/23-9/26)は、▲0.085～▲0.08%程度の出合い。S/N(9/26-9/27)は、▲0.085～▲0.08%程度の出合い。金融政策決定会合では▲0.10%のマイナス金利維持が決定され、足元のS/Nも横ばい圏での推移となった。SCはロールオーバーを中心に引合いが行われた。個別銘柄では2y366～367、5y127～128、10y340～343、20y155～157、30y49～51、40y9な

<短国市場>

現先レートS/Nは横ばい圏で推移。アウトライト市場は前場に3M▲0.35%の出合いが見られた程度で、決定会合後は様子見姿勢が強く閑散としていた。

<CP市場>

現先レートは横ばい圏で推移。CP市場は機械、電機、石油業態を中心にまとまった発行が見られ発行総額は1,300億円程度に達した。発行レートは横ばい圏で推移した。

●短期金融市場関連指標

2016/9/21	無担（速報）			有担（速報）			短国	東京レポレート
単位:%	最低	最高	平均	最低	最高	平均	売買参考統計値	平均値
O/N	▲ 0.083	0.001	▲ 0.061				－	▲ 0.086
T/N							－	▲ 0.084
S/N							－	－
1W			▲ 0.005				－	▲ 0.141
2W							－	▲ 0.136
3W							－	▲ 0.138
1M							－	▲ 0.143
3M							▲ 0.344	▲ 0.167
6M							▲ 0.322	▲ 0.225
1Y							▲ 0.360	▲ 0.227

JGB新発10年債		日経平均株価		ドル/円	
直近値	前日比	15時時点	前日比	為替(9時)	為替(17時)
▲ 0.030	0.030	16,807.62	315.47	101.60-62	101.80-83

日付		9/13	9/14	9/15	9/16	9/20
日銀当預残		3,040,400	3,036,900	3,025,800	3,066,900	3,096,200
準備預金残		2,738,700	2,725,600	2,722,900	2,762,600	2,788,400
マネタリーベース		4,045,700	4,042,500	4,032,500	4,075,200	4,104,900
無担O/N加重平均		▲0.057%	▲0.063%	▲0.065%	▲0.060%	▲0.060%
コール市場残高		76,824	77,674	77,879	75,052	70,748
	うち無担	57,511	57,337	58,540	55,001	51,149
	うち有担	19,313	20,337	19,339	20,051	19,599

●オペ結果

種類	オファー額（億円・百万ドル）	スタート日	エンド日	貸付利率	応札総額（億円・百万ドル）	落札総額（億円・百万ドル）	按分レート・利回較差・価格較差	全取レート・利回較差・価格較差	平均落札レート・利回較差・価格較差	按分比率
共通担保資金供給(全店)＜固定金利方式＞	8,000	2016/9/26	2016/10/11		2,400	2,400				
国債補完供給(国債売現先)・即日(午前オファー分)	96,456	2016/9/21	2016/9/23		826	826		▲0.600	▲0.612	
国債補完供給(国債売現先)・即日(午後オファー分)	60,000	2016/9/21	2016/9/23		267	267		▲0.600	▲0.600	
米ドル資金供給		2016/9/23	2016/9/29	0.95	1	1				

●2016年9月23日の予定

*流動性供給入札（5,000億円、9/27発行）

●日銀金融政策決定会合・結果

●金融緩和強化のための新しい枠組み：「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を導入することを決定。

(1)長短金利操作(イールドカーブ・コントロール)

①金融市場調節方針(賛成7反対2)

短期金利：日本銀行当座預金のうち政策金利残高に▲0.1%のマイナス金利を適用する。

長期金利：10年物国債金利が概ね現状程度(ゼロ%程度)で推移するよう、長期国債の買入れを行う。買入れ額については、概ね現状程度の買入れペース(保有残高の増加額年間約80兆円)をめどとしつつ、金利操作方針を実現するよう運営する。買入対象については、引き続き幅広い銘柄とし、平均残存期間の定めは廃止する。

②長短金利操作のための新型オペレーションの導入(賛成8反対1)

（ⅰ）日本銀行が指定する利回りによる国債買入れ(指値オペ)（ⅱ）固定金利の資金供給オペレーションを行うことができる期間を10年に延長(現在は1年)

(2)資産買入れ方針(賛成7反対2)(長期国債以外の資産の買入れについて)

①ETFおよびJ-REITについて、保有残高が、それぞれ年間約6兆円、年間約900億円に相当するペースで増加するよう買入れを行う。

②CP等、社債等について、それぞれ約2.2兆円、約3.2兆円の残高を維持する。

(3)オーバーシュート型コミットメント

日本銀行は、2%の「物価安定の目標」の実現を目指し、これを安定的に持続するために必要な時点まで、「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を継続する。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。
セントラル短資株式会社　登録金融機関関東財務局長（登金）第526号　日本証券業協会加入